

令和三年四月十三日の初登庁から早いもので、三年が経過し、任期は、残すところ一年となりました。

「未来へ挑戦する東通村へ」

村長就任以来、自らが掲げたスローガンの下、初登庁の日の感激を胸に、初心を忘れることなく、常に住民の皆様の視点・目線で職務を遂行してまいりました。

私の政治理念である、村民主体の行政運営を実現すべく、集落に出向き、村民の皆様の声に耳を傾け、声を拾い、対話するため、昨年度も、里地区を加えて全集落で

開催した「東通円卓会議」に加え、「農業者円卓会議」、

「漁師円卓会議」を開催し、直接意見を伺うことによ

り、それぞれの集落、地域そして幅広い年齢や職業に従事する皆様が抱えている、問題や課題について、これまで以上に詳細に伺うことが叶い、昨今の燃料をはじめとした物価高騰の中、生業の継続にご苦労されている現実
は、想像を超えるものでした。

また、小学生円卓会議や中学生議会では、子ども達
が、学校生活だけではなく、地域に対する思いや考え、
村の将来等について、しっかりとした意見を持ち、自分
たちが考える東通村の未来、将来の姿を楽しそうに話し
てくれました。

村内の事業所や企業に勤務する若者や、大学生、高校
生そして中学生が実行委員として参加し、企画・運営す
る住民参加型イベントは、その内容等が年々充実してお
り、だれでも参加でき、参加した人々や多くの住民が楽
しめるイベントとして、ますます定着していくと期待し
ております。

次に、引き続き原子力発電所との共生のための取組を
継続する中であって、発電所は基より、原子力関連産業
からの恩恵を、住民が享受できてこそ真の共生であり、
持続可能でなければならぬと、私は、常々申しており
ます。

令和六年二月、東北電力株式会社樋口取締役社長、東京電力ホールディングス株式会社小早川代表取締役社長と相次いで面談し、これからの中長期的な時間軸の中で、の原子力発電所との共生の在り方について、あらためて、事業者としての明確な考えを伺い、今後の対応についてしっかりと確認しました。

村民の総意である、東通原子力発電所東北電力一号機の再稼働、東通原子力発電所東京電力一号機の工事再開をこれまで以上に切望いたします。

今後、国の、地に足がついた形での原子力政策の進捗と、立地県としての青森県の明確な立ち位置を注視いたします。

村長就任以来、長年にわたり、要望されていた、道路や側溝整備など、生活に密着した事務事業、旧校舎や旧教員住宅解体工事など、至急対応すべきと判断したものを

は、財源を見極め、令和三年度から継続的に対応してまいりました。

しかし、これまで、対応していない事務事業が山積しており、課題解決するとともに地域住民の皆様の要望に応えるため、更に細かく意見を拾い、ひとつずつ解決することにより、住民との距離がより身近になってきたと、私は、確信しております。自分のこれまでの行政経験を活かし、村を良くすることが、私に課せられた使命です。

引き続き、人々の暮らしに密着した政策を、主体的に実施し、子供からお年寄りまで、健常者も障がい者も、みんなが参加して、多様性のある村づくりを進めることを理念に、未来をつくる「ひとづくり」、未来を牽引する「しごとづくり」を推進し、ひとりひとりに寄り添う「くらしづくり」、村民のいのちを守る「むらづくり」を実現し、原子力との共生のあるべき姿「東通モデル」を

構築すること、そして何より「村民主体の行政運営」を、強力に推し進めて参ります。

本年度は、十四課、三事務局、一室の組織体系で、職員一丸となり村政運営に努めてまいります。

常に住民の立場、相手の立場で考え、仕事と向き合い、最善を尽くす所存でありますので、宜しくお願いいたします。